

（天来書院）

朱處仁今所在。往得其書。信遂不取答。

朱処仁は今所在や。往に其の書を得たるも、信遂に答を取らず。

（現代語訳）朱処仁は今、どこにいらっしやるのでしょうか。住所がわかりません。先日、彼から手紙をいただいたのですが、使者の人が私の返事を持たずに帰ってしまわれました。

※昇試随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

一字書（九月二十二日締切）

課題

刻

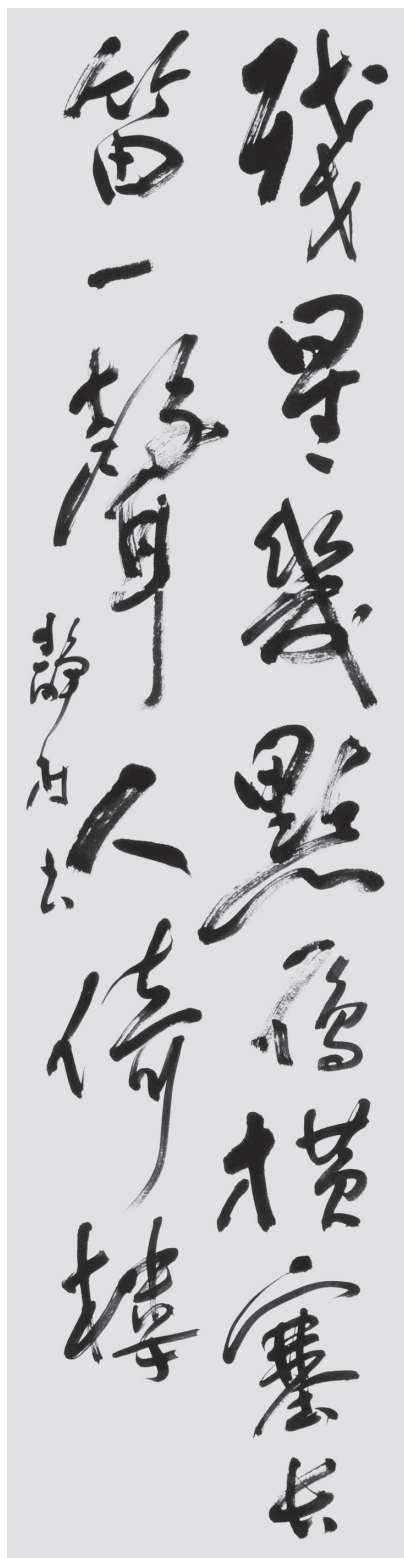
- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

お知らせ

7月18日開催予定でした「全国書苑の集い」は第7波コロナ感染拡大の為、急ぎよ中止しました。今後の様子を見て改めて開催日を決定します。参加を楽しみにしていた皆様や参加を迷っていた方々には、感染が落ち着きましたら開催しますので、それまでお待ちいただけますようよろしくお願い申し上げます。

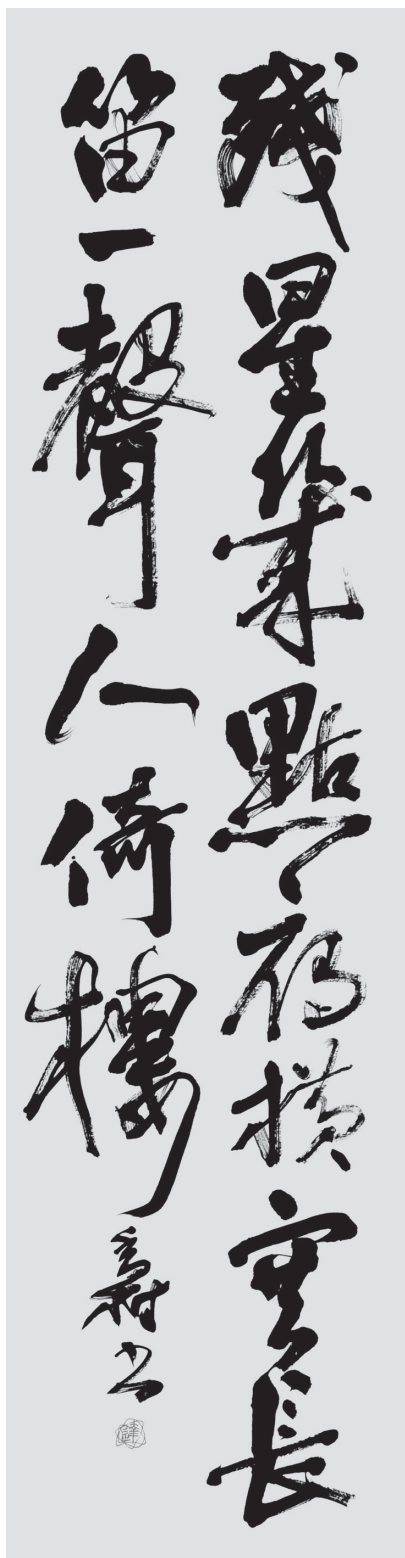
A
鈴木静村先生書

残星幾點雁横塞 長笛一聲人倚樓 (超撮)



B
高橋香樹会长書

大小の表出について 運筆過程で、画数、点画の組み合わせ、草書体の導入等によって、大小を打ち出すように集中徹底していくことが大切です。残 幾 點 塞 聲 倚の文字の個性(偏と旁、斜画が主画、連火、冠と縦画の傾き、同じ縦長形の中にも末画に相違等)を見取って下さい。



今回の課題は、一行目(八字)には画数の多い文字が並び、二行目(六字)には、逆に画数の少ない文字が多い。一行目は「幾・雁・横・塞」を草書とし、二行目は草書無しとしました。二字連綿が三ヶ所。「雁」は古典では「鴈」多し。墨継ぎは「塞」と「人」。

訳：夜明けの星かげまばらの空に、雁が飛んで関所を通る。ちょうどその時、高樓に登ってだれかが笛を吹くのが聞こえた。

予告 (十月二十二日締切)

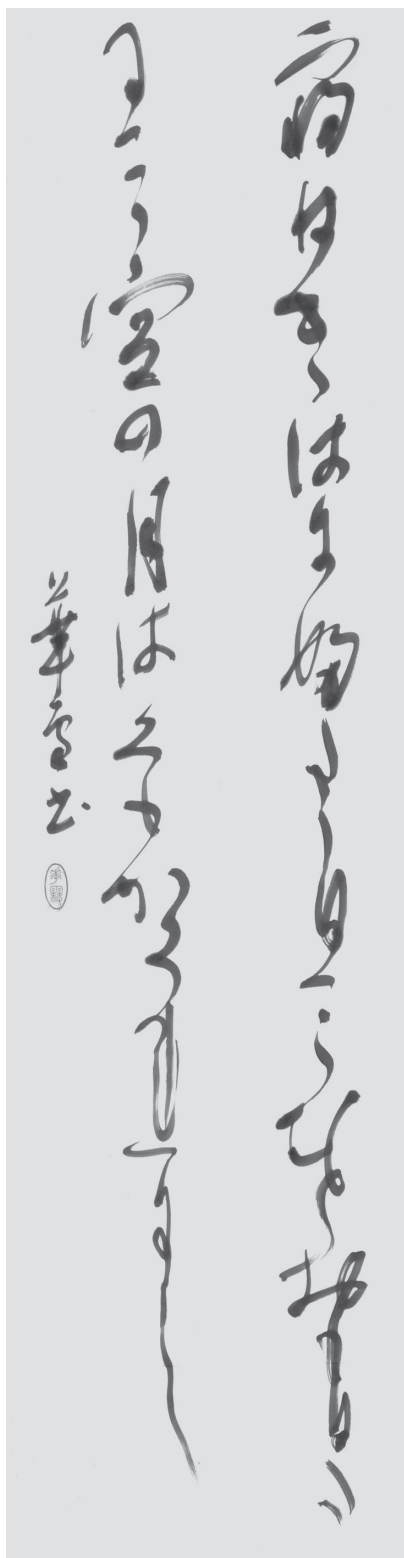
南都従事莫羞貧

對月題詩有幾人 (蘇東坡)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

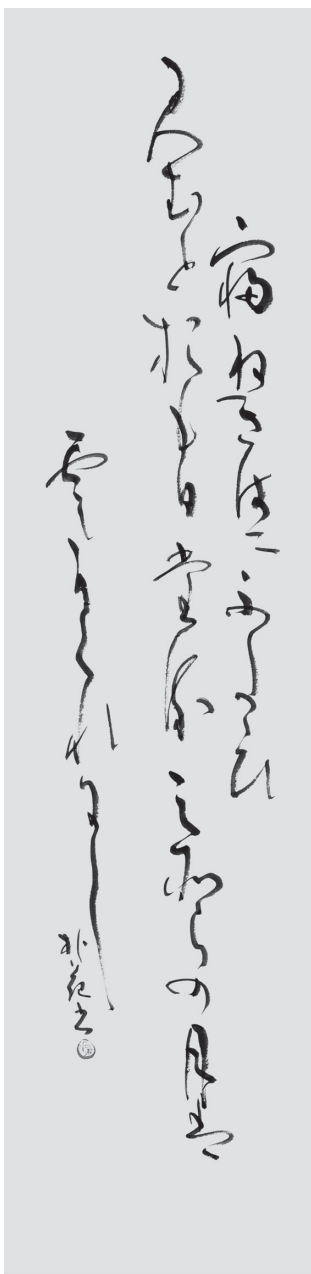
A
平岡華雪先生書

寝ねぎはにふたたび見むとおもひたるみ空の月は雲がくれにし (土田耕平)
寝ねぎは尔婦多、日三むとおも日多る三空の月は久もか久連尔し



B
向山朴花先生書

寝ねぎは二ふ多、ひ見むと於も日堂流三所らの月盤雲可くれ尔し



土田耕平 (明28、昭15)

長野県諏訪市出身の歌人、童話作家。

島木赤彦に師事し、短歌を作り始め、のち『アララギ』の編集に携わる。

後半生の大半を病氣療養後、文学活動を再開、『青杉』『斑雪』などを発表。

第一歌集『青杉』により、清澄透徹な歌風で、写生にして写生を越えている、と注目された。

学び方

歌意：月の美しい夜、寝る前にもう一度その月を見ようと思つたら、月は雲にかくれてしまったことよ。
近代歌です。近代風な表現方法も考えましたが、歌の内容に、古風な響きがある事と、歌の中期に、仮名文字が多い事から、変体仮名を用いて紙面に量感をもたせました。墨継ぎは、中七ですが少し潤渇の表出不足でした。この散らし方ですが、書誌誌に写真掲載された方の作品に惹かれ、その散らし方を参考にして書いてみました。毎月の書誌誌の書作品から、手近で多くの事が学びとれます。
紙面を占める文字の選び方と、触れ合う行間の位置と大きさを考えながら、作品を作っていくわけですが、いつも奇を衒わず、品位を失わず新しい作品に向き合っていきたいと思っています。

予告

(十月二十二日締切)

日をへつ、

音こそ

まさされ和泉なる信太の森の千枝の秋風

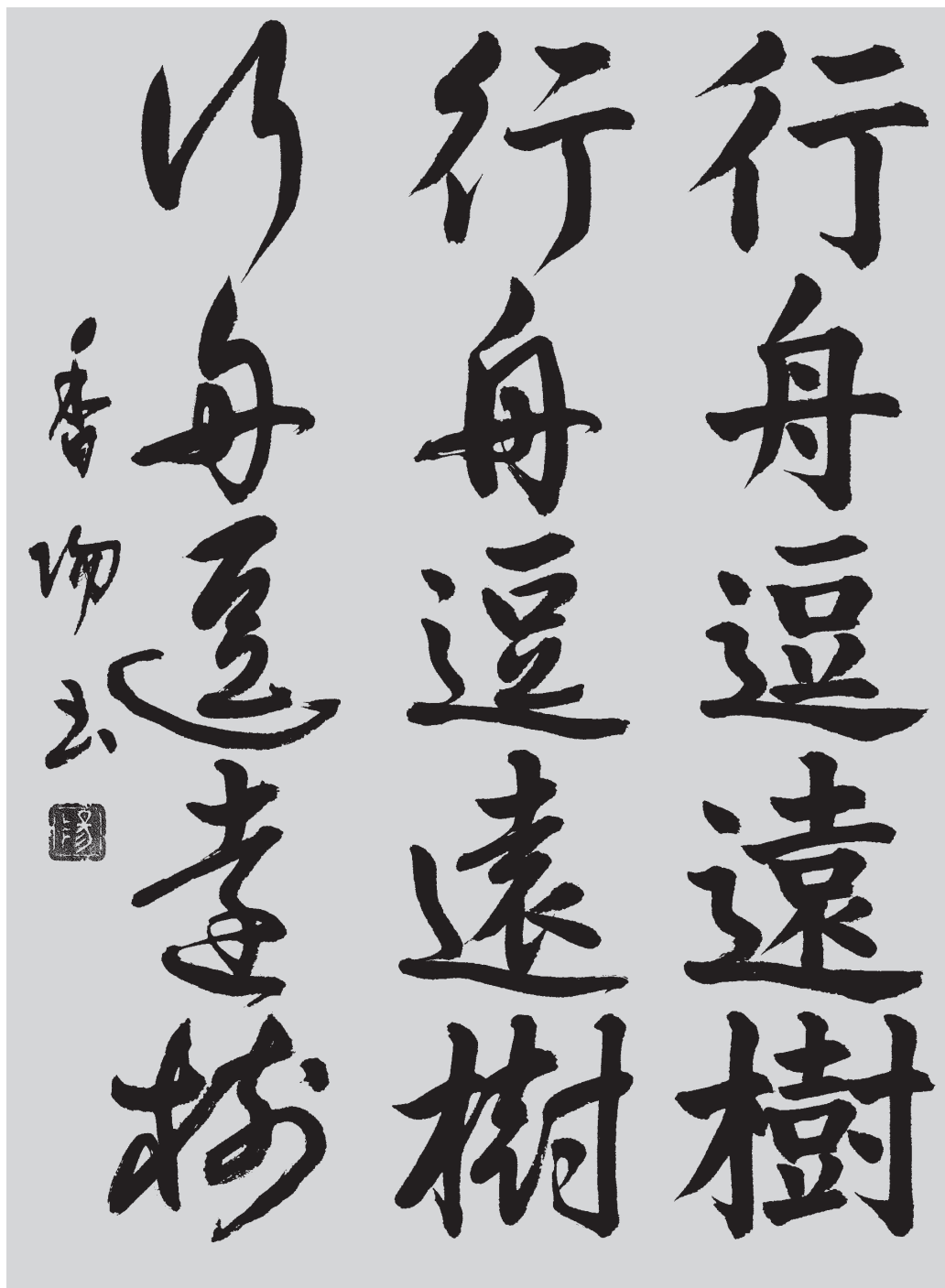
(新古今和歌集)

藤原経衡

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

福田香陽先生書

行舟逗遠樹 (陰鏗)
こうしゅう えんじゆ とどま
行舟 遠樹に逗り

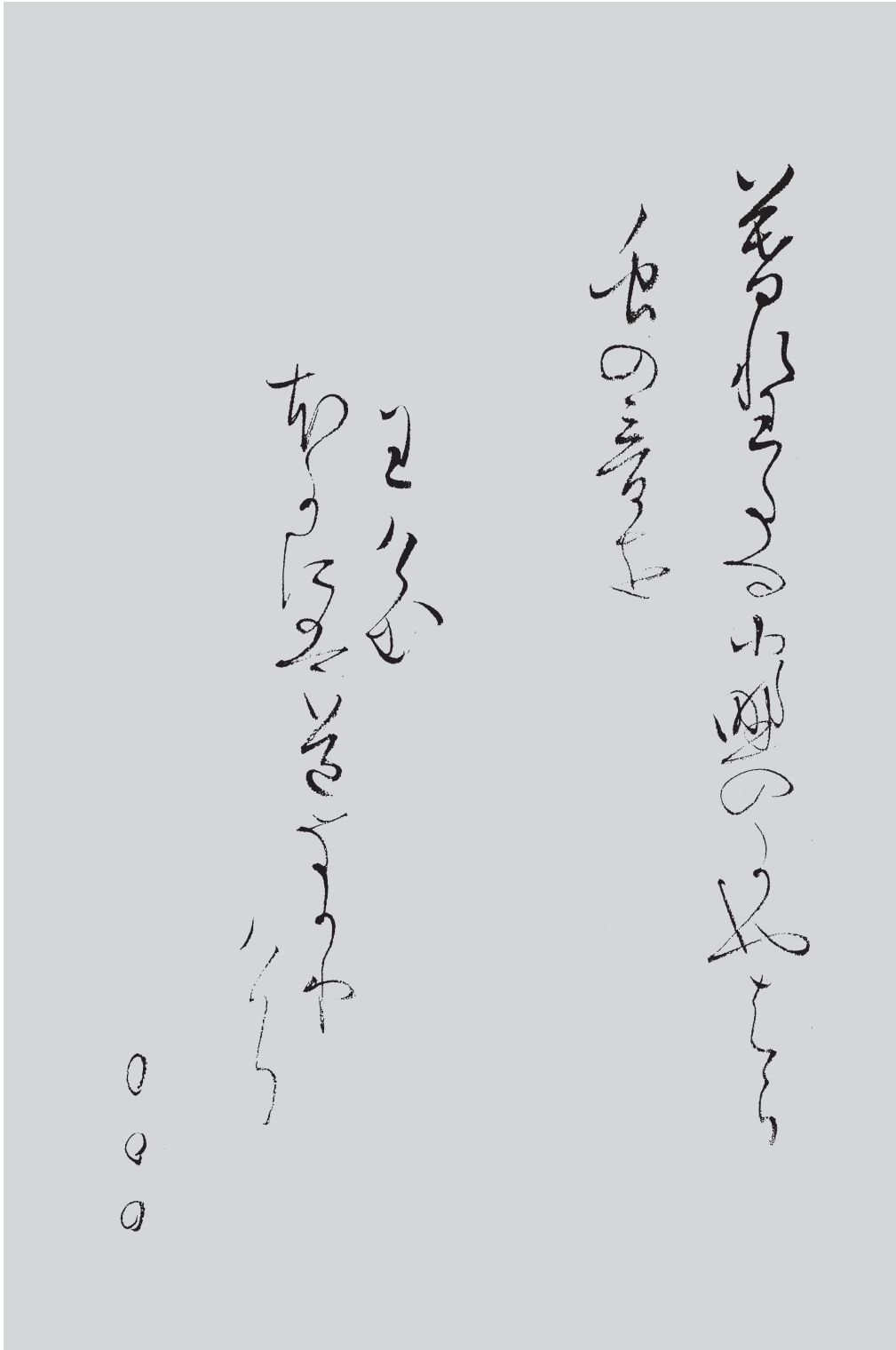


訳：われらの船は停止しているかのように、遠くに見える岸辺の木々との距離が少しもちぢまらず

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高塚竹堂先生書

暮れわたる小野のかやはら虫の音をわけむほかには道なかりけり
暮れ王多る小野の可や者ら虫の音を王介む本可に盤道奈可利介り



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

幽竹人の如く静かに(黎簡)

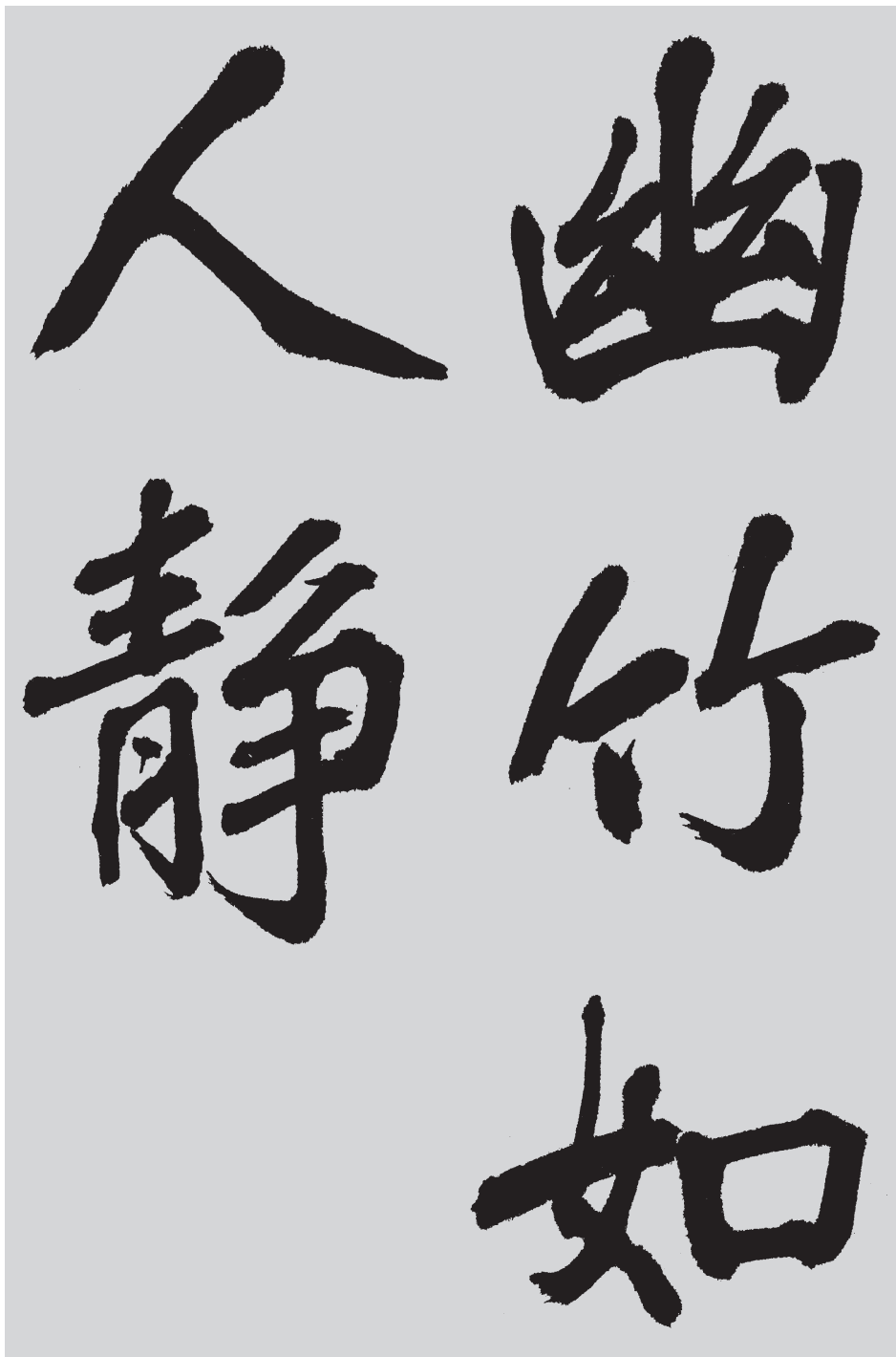
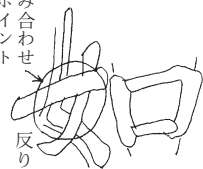
訳：幽境にある竹は人のようにものしずかである。

へ「女」字について

「女」こそ、ポイント!!

楷書でこの字がついてできている字を書くのは、少々以上にむずかしい。第一は一画目の二曲、次に二画目の斜線、中の「窓」は狭く。

組み合わせのポイント
反り



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

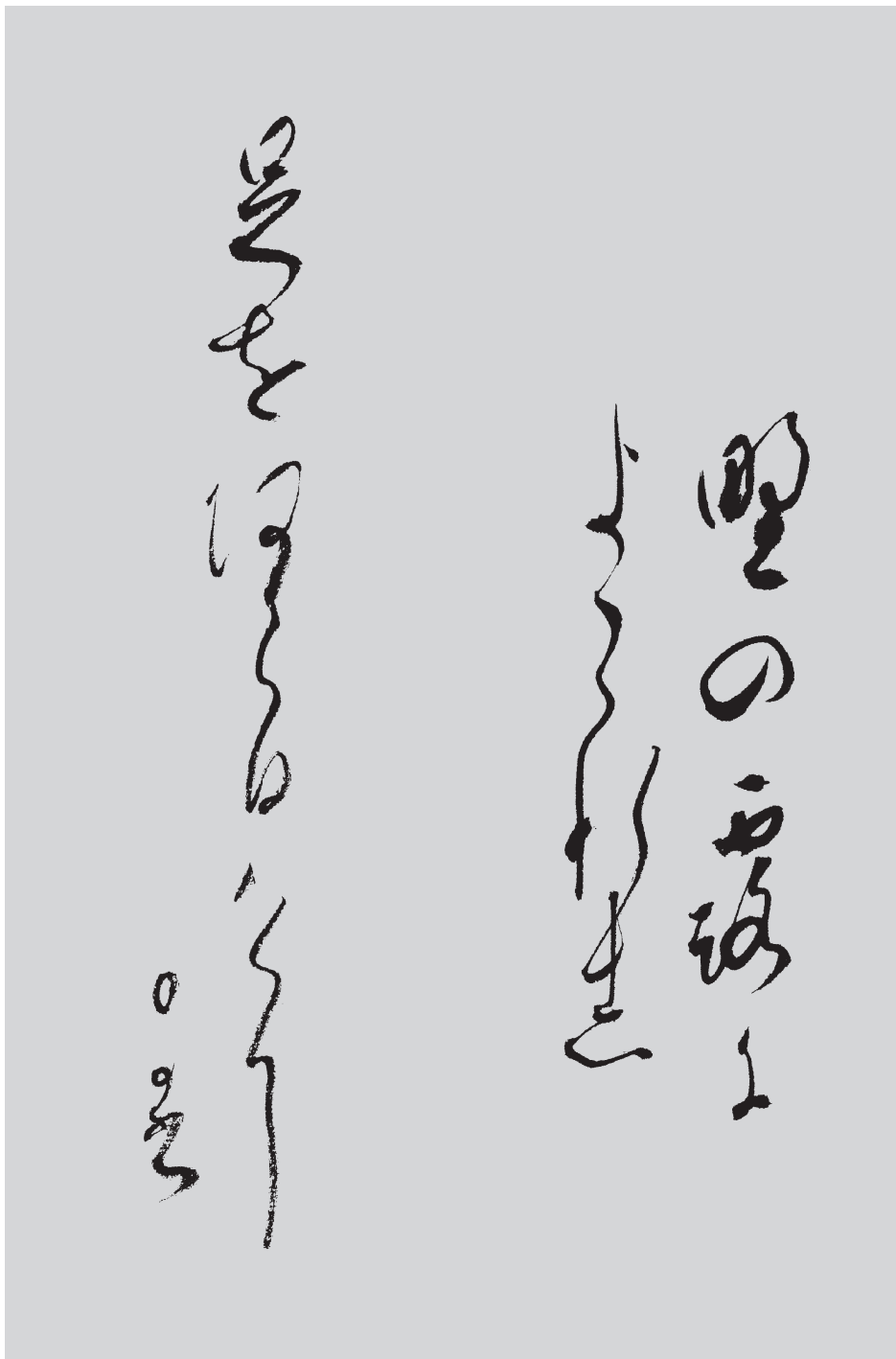
野の露によこれし足を洗ひけり(杉風)

野の露によこれ志し足を阿あら日ひ介けり

〔初歩的段階者へ―単体・連続練習をしっかりと―〕

草書の崩し方、変体がないを取り出し、又連続部分を取り出して手本を見ないで書けるように習熟することが大切。例えば、変体がないの「に尔・志・阿・日・介」。

〔参考〕 尔 志 阿 日 介



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

戸張丘邨先生書

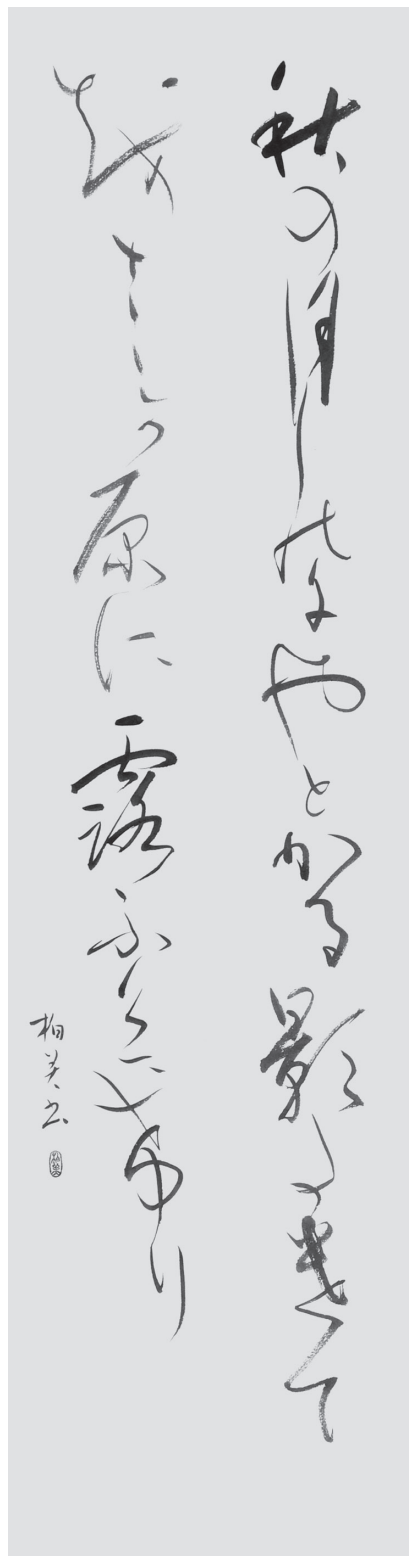
樂事良辰真具美 酒徒詩伴舊知名（王書）
樂事良辰真に美を具え、酒徒詩伴旧名を知る。



訳：楽しい事、よきとき、真に美をそなえて不足なく、飲み仲間吟じ仲間はもとから名を知っている。

石島柏美先生書

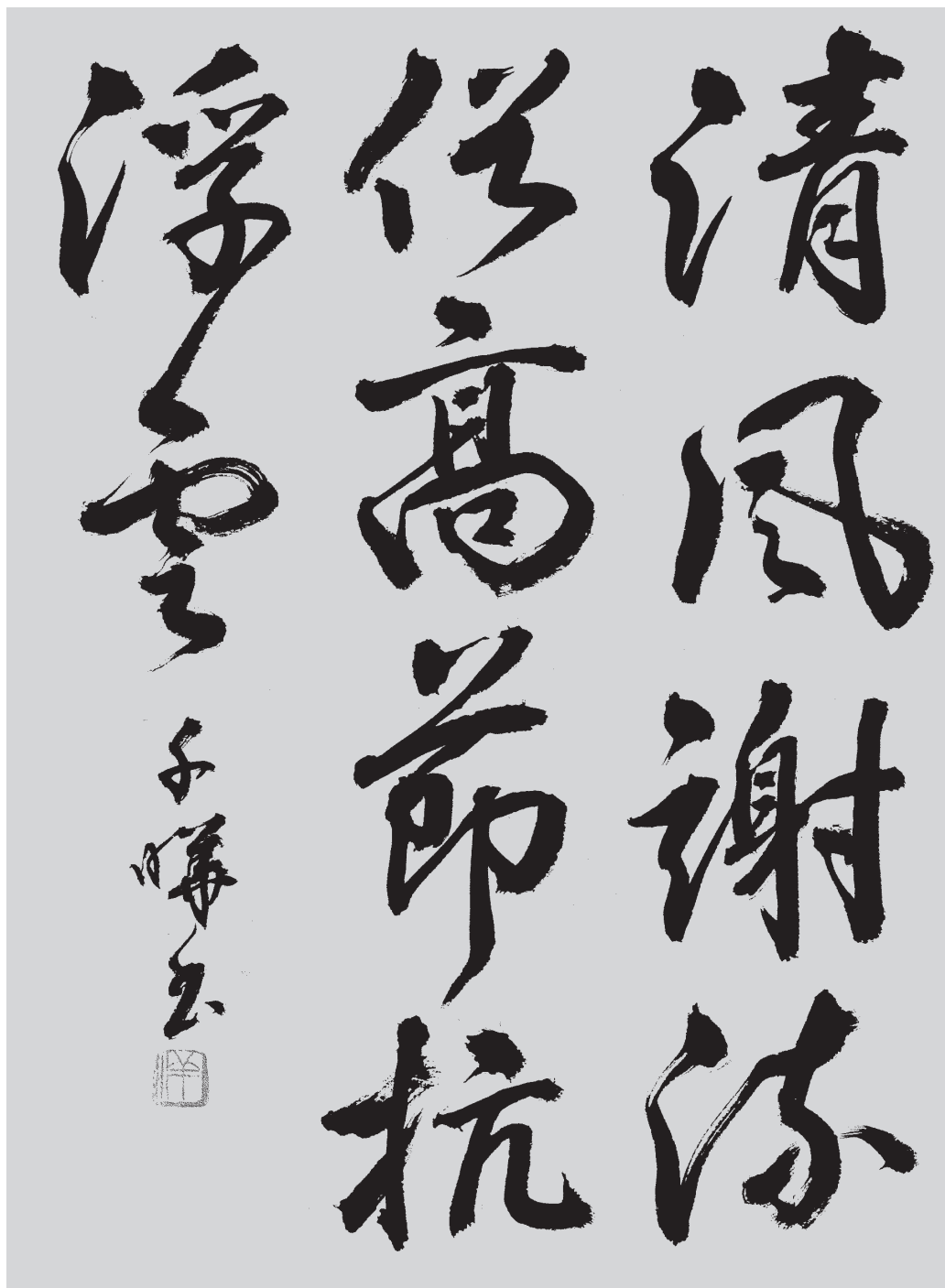
秋の月しのに宿かる影たけてを笹がはらに露ふけにけり（源 家長）
秋の月し能尔よとかる影多遣て越さ、可原に露ふ介二希り



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

路 川 千 暉 先 生 書

清風謝流俗高節抗浮雲（陳顥）
清風流俗に謝し、高節浮雲に抗す。

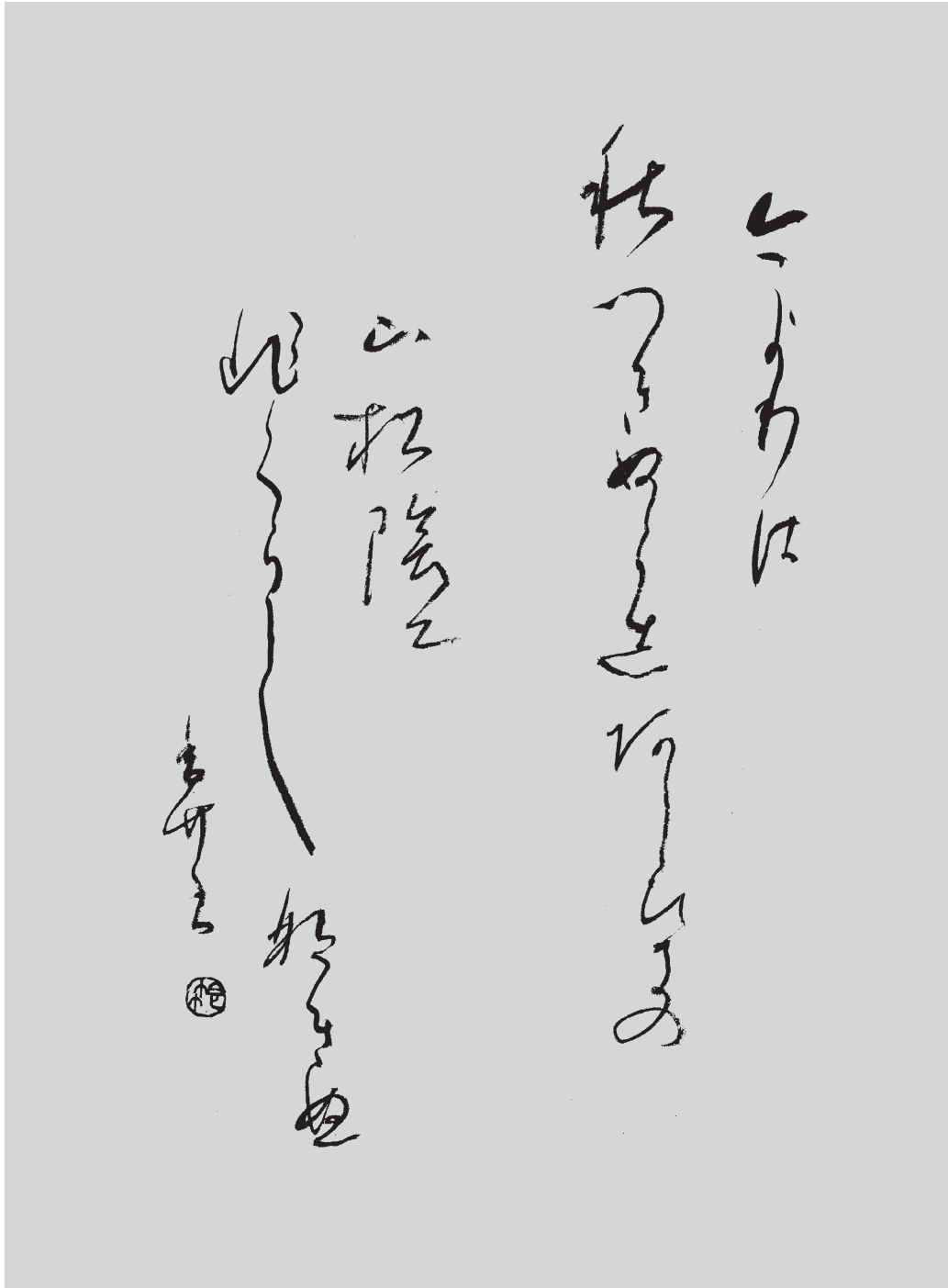


訳：高尚にしてけがれなき風姿は世の俗輩を相手にせず、見上げた節操は小人に屈せずして争う。

◆注 意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

青柳香竹先生書

今よりは秋づきぬらしあしひきの山松陰にひぐらしなきぬ
（万葉集 作者未詳）
今よりは秋つきぬら志阿しひ支の山松陰二非くらし那き怒



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

湯澤春翠先生書

川上香蓉先生書

課題 2 (初段格以下)

課題 1 (初段以上)

漬物にしても塩魚にしても、材料の新鮮さはもちろんのことだが、塩の良否もそれに劣らぬ大切な役割をする。

松林を過ぎると、真白な砂浜が朝の強い日光を受けて目ばゆい許りに映えていて、その向うに、海が文字通りに紺碧に輝いて見えるのである。

課題 1 (初段以上)

松林を過ぎると、真白な砂浜が朝の強い日光を受けて目ばゆい許りに映えていて、その向うに、海が文字通りに紺碧に輝いて見えるのである。
〔真夏の日本海〕中谷宇吉郎

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段格以下)

漬物にしても塩魚にしても、材料の新鮮さはもちろんのことだが、塩の良否もそれに劣らぬ大切な役割をする。

〔塩の風趣〕中谷宇吉郎